新春ごあいさつ

愛媛銀行
頭取　西川　義教

明けまして、おめでとうございます。

2025年を迎えるにあたり、謹んで御挨拶申し上げます。

昨年の国内経済は、大手企業を中心とした好業績を背景に順調な回復が続きました。新NISAも始まり、株価も総じてみれば年間を通して高水準で推移しました。価格転嫁の浸透もあり物価の上昇は続きましたが、一方では、33年振りとなる５％を超える賃上げが実施されるなど、物価と賃金の好循環実現に向け、官民一体となった取組みも進んでいます。

トランプ大統領就任による自国第一主義の加速や中東情勢の緊迫化など、留意すべき海外リスクはありますが、本年は消費と投資の一層の拡大が進み、日本経済が本格的な成長軌道に乗ることが期待されます。

県内経済においては、一進一退を繰り返しながらも、ゆるやかな回復を続けています。昨年は約５年半ぶりに道後温泉本館が全館営業を再開した他、松山空港国際線の運航再開や増便など、地域を盛り上げる明るい話題もありました。ひめぎん情報センターによる県内経済見通しアンケート調査結果でも、先行きの業況見通しは上向き傾向にあり、県内経済は引き続き、回復基調が続くことが期待されます。

こうした状況のなか、われわれ金融業界は、本格的な金利のある世界において、大きな転換点を迎えています。特に、金融デジタル化が急速に進み、業界の垣根を越えた競争激化が始まっています。昨年、当行では基幹系システムの更改とともに、次世代金融サービスの提供や行内事務の飛躍的な効率化を同時に実現するシステム「APプラットフォーム」を構築しました。内外の各サービスと迅速・柔軟に接続することができる強みを最大限に活かし、これまで以上に、お客様の幅広いニーズにお応えできる質の高い商品・サービスの提供に努めてまいります。

当行は、本年９月、おかげさまで創業110周年を迎えます。人口減少や少子高齢化、自然災害の多発、サステナブルへの対応など、地域を取り巻く課題は多岐にわたりますが、創業来、地域に支えていただいた感謝の念を忘れずに、グループ一丸となってお客様に寄り添い、本年の干支である「乙巳（きのとみ）」にちなんで、力強く成長し進化していく一年にしてまいりたいと思います。

本年も、皆さまのご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、自然災害や事故の少ない１年となりますこと、そして皆さま方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。